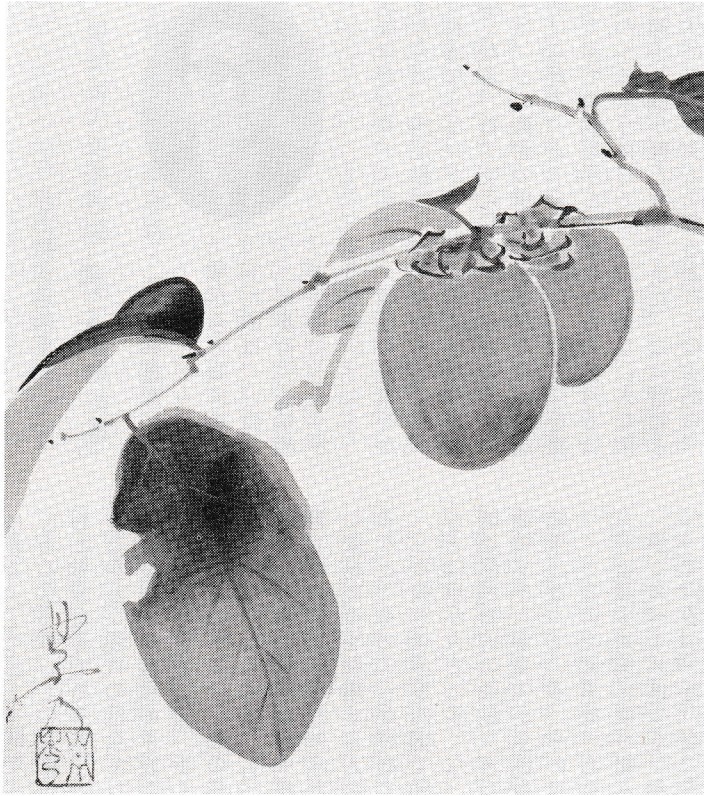


電友会四国連合会報

第 32 号

55. 10



目次

新直立二足歩行論	松山搬送通信部長	二
姓名談義	四国電気通信局 文書広報課長	二
昭和五十六年度恩給・共済年金 受給者の処遇改善に関する陳情書		三
公社に対する要望事項の回答		三
電退連総会・理事会		四
電退連事務局長打合会		四
事務局からのおしらせ		四
共済会だより(上)		四
電気関係功労者の表彰		五
短歌	藤田 基孝・合田 勇	五
特集	近況短信	六
安藤 房子	植田 末美	
木原 峰義	北村 辰巳	
高橋 元一	栗田 信雄	
	乗松 春美	
	森安 明	
表紙のことば	莊野 丹秀	八
OBサークルだより(松山・高知)		八
随筆	猪谷 嘉夫・藤田基孝	九
	田中 義隆・合田 勇	
川 柳	合田 勇・玉川柳遊子	二〇
余栄・訃報		二〇
次号予告		二〇
編集後記		二〇

新直立二足歩行論

松山搬送通信部長

廣 末 浩



人類の起源に溯って考えてみると、猿から人間に進化したのは、「直立二足歩行」を始めてからだと言学者が多い。

民族学者ルロア・グリーン教授の言葉をかき集めれば、四足動物は直接食物を口で食べなければならぬから、歯が頑丈になり鼻面が重くなる。首で支えられている頭の重さの大半は、この鼻面の重さであるから脳の発達に妨げられる。ところが人間は、直立位を獲得して手で食物を手ごろな大きさに分ける仕事にかかるようになると、不必要な巨大な歯列は縮小し顔が軽くなる。また、頭は背骨と体全体によって支えられるようになるから、まず後頭部やがて前頭部が発達する余裕が出来る。解放された手は身振りを形成し、食物の咀嚼、嚥下の仕事から解放されて口は、やがて身振りに伴う意味をもった発声すなわち言葉の形成に専心するようになる……と説いている。広い意味の人間の位置は、直立位により条件づけられていて、脳の発達はどうも「直立二足歩行」のおかげらしい。

「直立二足歩行」すなわち「歩くこと」は、人類が二〇〇万年にわたり繰り返してきた運

動であり、体はそれに適合するように発達し同時に精神も発達してきている。「歩くこと」は我々にとって人間が人間になった所以であるならば、このことは人間たる基本的権利とも云えるであろう。

しかし、現代の社会では、距離と時間と空間を征服する各種の手段が出現し社会生活は大変に便利になったが、歩くことを奪う結果になったものが多い。その最たるものは自家用車ではないだろうか。自分もマイカーの一人だが、車の利用が総て悪ではなくこと次第では必要であることは当然であろう。しかし安易に車を利用する人が多くなってきたこと、そのことが問題ではないかと思う。

三年振りに再度四国で勤務してまず驚いたことは車が大変に多くなったことだろう。四国通信局管内の通勤災害は、五三、五四年度連続で千人率発生が全国最高と云う不名誉な結果になっている。そのほとんどが自動車、バイク等の交通事故であり、管内一丸となつて災害減少対策に取り組んでいるところだ。歩くスペースは少く、歩くことさえ困難になっているが、青い空、青い海、青い四国はまだまだ自然環境に恵まれています。二本の足で四国の大地に足をつけて歩けば、人間らしい思考や想像、詩情等もじわじわと湧き出てくるだろう。

歩くことの意義を悟り、常に日常の生活の中で自然に歩くことを取り入れることが最も大切だと考えます。このことが人間らしい世界をもう一度我々のものにする事ができるのではないのでしょうか。

姓名談義

四国電気通信局文書広報課長

穴 吹 義 教

「アナブキです」
名刺を差し出して、初対面の名乗りをする相手は紳士は、さまざまな反応を示される。

「珍しいお名前ですね」
大半の方は、社交辞令からこうつぶやくようだ。穴吹姓は、香川県内に多い。その余慶もあって高松に住んでいた頃には、かなり具体的質問が返ってきていた。

「穴吹工務店のご一族ですか。それとも南海の選手のご親類……」などである。
その都度、適当に調子を合わせて生返事をしてきたが、考えてみると、ご先祖様は奇妙な姓を生み出してくれたものだ。

松山在住の氏姓学のオーソリテイと自称する某氏の説によれば、つぎの如し。(穴を掘って、鉞石を運び分ける鉞夫の姓名也)

吉野川の沿岸に、穴吹町という里がある。たぶんその近辺で先祖様は穴居していたのだろう。

あるとき、郷愁めいた気持ちで、訪ねてみたが、阿讃山脈のどこにも、その遺跡は見当らなかつた。それだけではない。電話帳にも同姓の人が住んでいないことが判明し、いささか落胆して帰途についた憶えがある。

町史にも町名のルーツがはっきりしない。そういえば、数十年前のこと、穴吹町史の編

纂に先立ち、町長が、わざわざ亡父に面会を求めた、という話を聞いた。

高松市内に穴吹御殿と称される立派な邸宅がある。穴吹工務店の社長宅にほかならない引き合わせてくれるご仁があつて、尋ねてみた。かなり年輩のご主人は、流石にご自分の姓の発祥について詳しくかつた。

——穴吹町には穴吹城址がある。それは長曾我部元親に滅ぼされる以前に、その地方に勢力を振るっていた地方豪族の居城だった。長曾我部軍に敗れた穴吹一族が、阿波から讃岐へと落ち延びた。それが、穴吹のご先祖様云云——

念の入ったことに、系図付きで説明してくれた。落武者が先祖である、はたまた穴居民族だったといわれても、今どきどうもこうもない。変なネーミングであることには変りない。先日、こんなことがあつた。東京の知人に電話をかけたとき、あいにく不在だったので、伝言を頼んだ。最後に「アナブキからとお伝え下さい」と言つて、切ろうとした。

と、相手は、ブとズとを取り違えて、姓の反覆をしてきた。ヒドイ奴だと恨んでみても始まらない。こんな誤解を面と向かつてする人がときどきいる。閉口千万このうえなし。

昭和五十六年度恩給・共済年金

受給者の処遇改善に関する陳情書

恩給・共済年金受給者の処遇改善につきましても、いつもながら格別のご配慮にあずかり、私ども電電公社関係退職者はひとしくそのご厚志に感謝いたしております。

おかげをもちまして、逐年改善の実があら、昭和五十五年度においては相当の改善が図られましたことは、これひとえに関係各位のご尽力によるものと厚くお礼申し上げます。しかしながら、恩給・共済年金受給者の処遇につきましては、本質的な改善すべき多くの問題を残しておりますので、昭和五十六年度国家予算等の編成に関連し、左記の改善措置を是非講ぜられますよう特別のご高配を賜わりたく、会員一同の総意に基づき、ここに謹んでお願い申し上げます。

また昭和五十四年度においては、公共企業体職員等共済組合法の大改正が行われましたが、その際公共企業体の負担となつていっているわゆる整理資源等を本来の趣旨の国庫負担とする措置が実現されませんでしたので、これらを国庫負担としていただくようお願い申し上げます。

なお、今後制度の改正が行なわれる場合には、年金生活者の既得権が侵害されないよう十分な配慮をするとともに、恩給における恩給公務員期間以外の雇傭人期間についても年金算定期間に通算していただくようお願いいたします。

記

一 恩給・共済年金については実質価値が維持できるように自動スライド方式を制度化していただきたい。

二 恩給・共済年金の改定時期は、すべて四月一日実施とし、現職公務員の給与改定時期から一年遅れとなつているので、これを同時期にしたい。

三 恩給算定の基礎となる仮定俸給を総点検

して格差を是正するほか、恩給と共済年金との格差及び退職年次による格差の一層の是正を図っていただきたい。

四 扶助料または遺族年金の算定基準額は、恩給・共済年金の八〇％に改善していただきたい。

五 恩給・共済年金の最低保障額を引上げていただきたい。

六 恩給・共済年金受給者に対する老齢福祉年金の併給制限を全面的に撤廃していただきたい。

七 高齢者の年金に対する課税については現行の租税特別措置法による時限措置である高齢者の年金特別控除を恒久立法とし、昭和五十六年については七八万円を一〇〇万円としていただきたい。

八 恩給・共済年金に関する各種審議会、諮問機関等については、退職者団体の代表者を加えていただきたい。

(この陳情書を例年どおり関係官庁ならびに国会議員各位に対し、電退連会長、各県会長連署のうえ八月中旬にそれぞれ陳情を行ないました)

昭和五十五年度の公社に対する

要望事項の回答について

去る四月三十日電退連会長から公社厚生課長あて陳情した要望事項について左記のとおり回答がありました。

① 生存者叙勲の範囲の拡大について

従来からも受章者数の増加及び対象範囲の拡大に努めてきておりますが、今後さら

に郵政省を通じて総理府に対し働きかけて行きたいと考えております。

特にⅡ類につきましては対象分野の拡大に努めるとともに公社の表彰制度を活用することににより叙勲対象者の増大を図るよう引き続き努力する所存であります。

また叙勲は在職中の功績及び退職後の功績等により総理府において総合的に判断されるもので、公社と公社外の受章者を一概に比較できない要素があるものと思われま

す。

② 医療関係の共済組合任意継続期間の延長について
共済組合の任意継続組合員期間の延長につきましては、法律により定められている事項であり公社独自で実施できない事情にありますので御理解いただきたいと思います。

なお、三公社の打合せ会等の場で御要望のある旨説明して行きたいと考えております。

③ 死亡者叙位叙勲の早期伝達について

死亡者叙勲の早期伝達については、郵政省を通じて総理府に対し働きかけるとともに、公社としてもその期間を短縮できるように今後とも努力する所存であります。

④ 共済組合特約保養所の利用について

直営保養所につきましては、職員と同じ条件で御利用いただくこととしております。しかし特約保養所につきましては、利用料金の半額相当を共済組合が負担していることもあり、その利用対象者に制限を設けざるを得ない事情にありますので、御理解いただきたいと思います。

⑤ 退職者のための会館、クラブ等に談話室

の付設について

電電会館、職員クラブにつきましては、職員と同じ条件で御利用いただくこととしております。

また、共済会では社会福祉事業の一環として、退職された方々のコミュニティ活動や文化活動の一助として各支部ごとに退職者談話室を五十七年度末に向けて順次開設することとしております。

⑥ 通信局厚生課に共済年金専担相談役の設置について

恩給・共済年金制度の改正等につきましては、常にその円滑な実施に努めてきていますところではありますが、ご要望の件につきましては、その趣旨等をも加味しつつ今後に向けて検討のこととして行きたいと考えて

電退連総会・理事会

電電公社退職者団体連合会では、六月四日東京・京橋会館において、第十一回定例総会（兼理事会）が開催され、当四国連合会から泉会長が出席した。議題は次のとおり。

- 一、昭和五十四年度事業報告書承認の件
- 二、同 収支計算書承認の件
- 三、昭和五十五年度事業計画承認の件
- 四、同 収支予算案承認の件
- 五、役員選任の件
- 六、その他 医療共済制度による協力について中山電気通信共済会長に記念品を添え感謝状贈呈が行なわれた。

電退連事務局長打合せ

五十五年度全国事務局長打合会は七月二日東京・京橋会館において開催された。

出席者は電電公社から秋本秘書課調査役、加藤厚生課長、高尾共済課補佐、本部から行広会長をはじめ各常任理事および各地方団体事務局長が出席し次の議題等について打合せが行なわれた。

- 一 五十五年度共済年金受給者の処遇改善の経過と今後の見通しについて
 - 二 生存者叙勲の現状と今後の問題点
 - 三 各団体の提案、要望事項等について
- 今回の打合せには公社側からそれぞれ関係部門のご出席があり、きわめて有意義であった。

事務局からのおしらせ

○ 昭和五十五年度各県の会総会

本年度の総会は次のとおり開催の予定です。

- | | |
|-------|----------------|
| 徳島 | 十月二十八日（火）午前九時半 |
| 徳島駅前 | 阿波観光ホテル |
| 愛媛 | 十月二十八日（火）午前十時半 |
| 松山市湯山 | ホテル奥道後 |

○ 保険料控除申告書の提出について

今月は保険料控除申告書の提出月です。扶養控除等申告書（本年一月職員部厚生課あて提出した方）を提出された方で当年中に支払った保険料がある場合は、忘れずに四国電気通信局職員部厚生課共済係あて十月十日までに提出してください。

なお余白に年金証書記号番号と自宅の電話番号を忘れないように書いて下さい。

共済会だより (十二)

電気通信共済会四国支部

福祉相談所

◎援護のお見舞金を贈呈します
心身障害者などのご家族に、今年度も援護のお見舞金を贈呈することになっています。

受付け切りは十一月十日です。
詳細は、「電電四国」七月号に掲載していますのでご覧ください。

◎お子さんの勉学に

育英資金をお貸しします

一 貸付対象
公社、全電通、会に永年勤続した退職者及びその死亡した方、並びに在職中死亡した方等の子で学資の支弁に困難な方

二 貸付内容

高校 月額 一万円

大学(自宅通学) 月額 一万五千元

大学(自宅外通学) 月額 二万円

短大、高専 月額 一万五千元

三 返済方法

卒業の翌月から高校は五年以内、大学は十年以内で半年賦または年賦で返済していただきます。利息は年三分です。

詳しくお知らせになりたい方は、福祉相談所(三三二一三三二二)へお問い合わせください。

◎皆さんで、ボランティア活動を

ボランティア活動は、「世のため、人のために何かをやってあげるのだ」という思い上がった行為ではなく、だれもが持っている善意を素直な行動として表わすことだといわれ

ています。

国や地方公共団体が行う公的福祉制度が、いくら充実してもそれだけでは十分ではなく、地域社会の善意の人々に支えられた暖い身近かな活動がなければ、血の通った本物の福祉とはいえません。

ボランティア活動とは、このようにすべての人が人間らしい生活ができるよう自分の能力に応じて行う活動であります。

アメリカの最近の統計によると、ボランティア活動に参加しているのは、一四才以上のアメリカ人四人に、一人の割合だという。

日本では、総理府調査によると二〇才以上の成人一六人に一人の割合となっている。

そしてボランティア志願者は約三割、頼まれればやってもよいという受動型を含めると約七割にも達するそうです。

ところで、共済会では電電職域の福祉の向上をめざして努力しておりますが、従来の社会福祉事業に加えて、ボランティア活動の育成、組織化にも取り組むこととしています。

OBの方々が永年にわたって培ってきた技能や知識などを地域や職域のために提供していただき、併せて本人の生きがい感につながることを期待しています。

電気関係功労者の表彰

去る三月二十五日の電気記念日に満八十才以上の電気関係功労者として次の方々へ、社団法人日本電気協会会長から感謝状および記念品(会津塗木杯)が贈られました。

- 桑村 三男殿(土佐)
- 佐賀 茂吉殿(松山)
- 北川 茂明殿(高知)

短歌

小島 知龍殿(高知)
山本房太郎殿(高松)

藤田 基孝(宇和島)

み堂拭くぞうきんにまつはる髪の毛にこころみだるる吾にもあらず

琴の音のひびくみ堂の神の前献茶の式にこころしづめむ

釜に鳴る湯気はうしろの金屏風にかげを引きつつほのかに匂ふ

合田 勇(松山)

風鈴の音の涼しく七夕の短冊を書く孫すこやかに

仏壇に合掌をする吾を見て孫も幼き手を合はせをり

電話のかけ方のポイント

呼出音は一〇回鳴るまで待つて!

相手がいとも電話機のそばにいたりとは限りません。相手の身になって呼出音一〇回(三〇秒)ぐらいまでは待つてあげましょう。在宅の場合は一〇回ぐらいで応答してくれるはずですよ。



特 集

近況短信



安藤 房 子 (坂出)

この文を通じ皆さまにお目にかかる頃は、秋風が肌に快よく感じる頃だと思えます。

私は秋が好きで、山も庭木も紅葉して菊の香りが立つと、朝な夕な庭木の中に入り、草むしりを楽しみます。

四世代同居、子守り、家事、雑事におわれ絶えずイライラしていると、夜は不眠勝ちで健康を害してしまいます。

去る夜、眠れぬままに、考えていると、「疲れた」といって朝寝をせず、一時間早く起きたらよいことに気付き、実行してみると、これは大収穫で、孫にも邪魔されず朝の家事が手順よく運び、庭木の草まで少しずつ取り除く余裕ができて来ました。家族の顔が揃って膳につくと、朝の雑事を済ませた満足感で顔がほころびます。これこそは、「心のゆとり」だと感じています。心にゆとりがあると相手の立場にも立てるし、その結果、心ある言葉となって相手に伝わるのではないかと、思いつつ暖かい家庭を守り続けているこの頃です。

植 田 末 美 (琴平)

退職後早二年数か月を経過し、その後も至って元気で現在第二の職場で毎日を健闘して

おります。

第二の職場といっても、公社の業務とは一転して変わった証券業界の職場です。三十余年の公社生活から今日の第二の職場に入社して感じたことを二、三申し上げて私の近況だよりの一頁といたします。

第一に社員が管理職をはじめ女子社員に至るまで誠実に上司からの命令を素直に受けて真剣に業務に精進していることです。

第二に業務については、上司の命令の服従、仕事の取組方、これ等はなかなか厳しいものがあり、企業努力は格別なものがあります。

第三に私達人生の第二の職場として働く者に対しては、先輩者として、よく理解され大変暖かく取扱われ、尊敬される点は、恐縮しております。

しかし高齢化社会の進む中、世相は厳しい現状かと思えます。

ともかく健康で毎日を送れることに感謝しこれからは、社会に奉仕する気持で余生を送る覚悟です。

家庭は現在家内と二人暮りして、二人の孫達とときどきやってくるのを楽しみにしている毎日です。

今後は会員の皆様と共に元気な毎日を送れることを願って近況をお知らせいたします。

勝 浦 喜 三 (松山)

生来頑健な方ではないが特に何処が悪いという所もなく感謝しております。

退職した当座は、日日は休日に馴染まず心身共にまごつきましたが、今では自ずと日課もきまり、盆栽やら謡曲、囲碁に散歩、読書

等結構退屈せずに過しております。

木 原 峰 義 (松山)

一 健康状態

数年来お医者とお薬の御厄介になっておりますが、心配な状態を脱して喜んでおります。

二 日常生活の中で気を配っていること

- 1 早寝、早起の励行
- 2 読書
- 3 なるべく歩くこと
- 4 諸会合にはなるべく出席
- 5 気候の良いときの旅行

北 村 辰 己 (高松)

三月三十一日、四十年間の公社生活を卒業し皆様の仲間入りをさせていただきました。

私の場合は退職後に何をしようかという迷もなく宗教的な道、宗教ではありませんが、修養団体の「愛と光の会」という会を結成しています。私は在職中の五十一年一月五日に石手寺(四国八十八カ所第五十一番札所)のみ佛さまの来訪祝福をうけて以来、裡なる「愛と光」を見守りつつ生きてきています。まだまだ未熟な者ですから毎日毎日心身を拂拭して努力しています。

弘法大師の云われる「同行二人」のもう一人。

伝教大師の云われる「一隅を照らす」あの光。

親鸞聖人の云われる「盡十方無碍光如来」のあのアーミターバ(靈光)。

日蓮聖人の云われる「妙法蓮華経」のあの

胸の中なる寶石。

道元禪師の見られた「佛性」も、キリスト様の云われる「神(K.A.M.I.)の分霊」の愛がこの宇宙にそして総ての人の胸の中にみ霊として光として実存していることを教えられました。

それ以来約七〇〇人の方々に神様の癒しをお伝えいたしました。私には力はない。神様へのみ力があります。その中で約三分の一の方はただちに癒されています。三分の一の方は快方に向っています。三分の一の方はお変わりありません。

私はこの結果を通じて、神の偉大さを感じておられるのであります。各人に自由が与えられており、その人の心と意識を通じて神の栄光が現れるからです。自らの偉大さ(神の分霊)をすなおに認めるとき神の無限大の力がその人に流れ入るのであります。一切の不調和(病気等)は調和状態になります。(病気は癒されます)

般若心経を録音したテレホンサービス(〇八七八一六五二〇七七番)を公開しています。このテレホンサービスで般若心経を聞いただけで難病が完治した方が何人かいます。どうぞご利用下さい。

栗 田 信 雄 (松山)

五月末から体調をくずす。胸部レントゲンの結果気管支肺炎と診断される。その後肺炎の症状は消えたが体調は回復せず。医者も心配して検尿、検便、検血、血圧、心電図、血糖検査、ついには胃カメラまで呑んだが結果は胃にちょっとときがあるほか特に異状は見

当たらず、体がしんどくなる原因は何んだ

ろうと医者も頭をひねっている。まわりのものからは、たまっていた日頃の無理が一度に吹き出たのだらうと云われ、日課にしていた城山登りも止めることにした。つねづね城山へ登れないようになれば自分の生命もおしまいだと思ってきたが、そんなに思いつめることもあるまいが、体のどこかが、あるいはからだ全体がくずれてきたのはたしかである。年のせいであろうか。

それにしてもこんなことをくりかえし、じりひんで死ぬることだけは免れたいものである。死よりも長患いが恐ろしい。

高 橋 元 一 (高松)

公社を辞めてからはや十六年になる。その間十年間四国通信建設株式会社に御厄介になり目下悠々自適とまではゆかないが毎日家でぶらぶらして居る。身体は幸いどこも故障は無いようだ。趣味は園芸、囲碁、釣り等多彩である。時々園芸クラブや囲碁クラブで公社OBの方々と顔を合わせるのを楽しみにして居る。

家の敷地が百七十坪程あるので野菜類を色々々と作って居るが腕前が上達したのか収穫物が多く家では消化しきれず知人に配るのに苦労して居る。パチンコにも時々行く。勝ったり負けたりであるが調子の良い時はタバコを十個位もらえるので仲々止められない。健康上タバコを止めようと思つて色々なパイプや何か買って来たりするが意志が弱いのか何時の間にか元にもどってしまう。

秋には末娘が結婚して遠くへ行ってしまう

ので淋しくなる。

乗 松 春 美 (松山)

六月二十日読売が計画の五泊六日の北海道旅行に、大阪駅午後五時十五分発の寝台特急で、夫婦で参加した。青函連絡船の八甲田丸に乗船して、函館駅に足を踏み入れたとたん、北海道へ来たと感じた。北海道は札幌などの近代都市から、すこし奥地へ入ると未だに目を見張るような大自然が眺められ、異国情緒を感じさせられる。よく北海道は「森と湖のくに」と形容されているが、その原生林の緑と湖の調和は、他地方では見られない壮大さと美しさが迫ってくる場所だけに、真っ直ぐな道路は坦々と、長い所で二十七キロもある。広い牧場で牛や馬が豊富な草を食べている。

函館から先ずははじめに歴史で有名な五稜郭を見学、日本海の雷電海岸では珍しい岩が点在、海水は美しくこんぶや若布がよく見える。札幌の大通り公園、時計台を経て層雲峡へ到着、ここの岩壁の絶景に驚く。オホーツク海に広がる小清水原生花園では、すかし百合はまなすが色あざやかに咲いている。美幌峠、硫黄山の眺めは格別だった。弟子屈観光牧場で妻は恐る恐る馬に乗ったが、馬の方がおとなしい。摩周湖は霧がいつぱいだが一瞬中の島が見え、さすが神秘の湖である。阿寒湖での湖上遊覧を楽しみながらマリモ見物をする。然別湖畔を走り日勝峠、日高を経て千歳空港に到着後、千歳から大阪空港へ飛行機で帰り、翌朝松山観光港へ無事帰松できた。今回の旅行は長い間念願していただけにほんとうに良

かった。よくテレビで北海道のことが出たりすると、自分たちが行った時の事が思い出されてとても懐かしい。

夏の日や美幌の展望去り難し
花アカシヤ盛りの並木妻と行く
霧退くを待ちて見渡す摩周湖

森 安 明(高松)

今年三月末日付で室戸電報電話局を最後に
公社を退職し、上司の御配慮により財団法人
日本公衆電話会(通称赤電話の会)香川支部
に勤務しております。公社在職中は先輩の皆
さんに何かと大変お世話になりましたことを
紙面をお借りして厚くお礼申し上げますと
もに、今後ともよろしく御指導を賜ります
ようお願い申し上げます。

顧みずと昭和三十三年六月香川通信部か
ら四国通信局秘書課へ転出して以来二十余年
ぶりに故郷に帰りました。香川を離れる際
は、長くとも四、五年すれば帰してもらえ
だろうぐらいに考えていましたが、現実はず
びしく、この二十余年間愛媛―徳島―愛媛―
高知と一度も香川県で勤務することなく退職
を迎えました。しかし今考えてみますと、職
員多しといえども四国四県すべての地で勤務
した者は数少ないのではないかと自己満足し
ておりますし、何にも増して各県の気候風土
を体験することができ、それぞれの地で数多
くの知己を得たということは、これからの人
生にとって大きな心の支えになるものと確信
しております。

現在屋島の近くに仮住いしていますが、本
年度中に生れ育った本籍地(香川医大の近く)

に小宅を建てるよう準備を進めております。
その完成こそ本当の意味での故郷に帰ったと
いう実感を味わえるものと思っています。

表紙のごとば

柿 莊野 丹秀(内海)

秋晴の空に赤い柿の実が目につくころ、
どこからともなく秋祭の音が聞えてくる。
童心に返ってワッショイワッショイと大
声を出したくなる。
過ぎし日の青春がまだ心のどこかに残
っているのかも知れない。

OBサークルだより

松山友佳里句会

花火見る期待を乗せて電車発つ
武家町跡街騒絶えて蝉時雨
鬼灯の青きが店に残りけり
初秋の深山登りの息はずむ
霧流るだけの山脈見て飽かず
新涼や起ち居こまめに厨妻
新盆や妻亡き家の居間広く
孫と娘と今パリ―に在り月涼し
戻り梅雨零れて伊予路に皇子迎ふ
仲谷あきら
七夕や妻も指折り句をつくる
乗松 春仙
浜木綿の白の妖しき夏館
水関さとる
余生てふ言葉泌々秋の風
山下 露生
鳴き出でし蟬に晴天表われる
横山 蔵峯
夏草や二代で絶えし石の門
渡部 汀耕

高知やまも句会

水無月の昼の灯とも草の宿
研して朝ひぐらしや滝かかり
灯を消せば襖をたたく黄金虫
大滝の二つになりてなおはげし
牛啼いて牧場に梅雨の雲垂るる
牛啼くや峯に広がる牧の雲
照るてる坊主笹にゆらゆら星祭
木洩日に色浮き出でし岩の苔
草取の背ばかり見ゆる青田かな
禅寺や包まれてる蝉時雨
夏草や台場標も色褪せて
累々と巨岩が支う滝の壺
ほろほろと雨のこぼるる花南天
校庭の一隅に咲く浜木綿
手にとれば蔓荊の花美しき
格納庫そのままにして青田かな
蝉塚の昔をしのぶ緑かな
紫陽花の一輪あわし雨に濡れ
鯉節を煮る匂い厨にさみだるる
沢蟹の縁に這い出る雨あがり
蔓荊の雨紫に蟹の庭
腹採滝の道より上り来し
白南風や供華の乱れし蟹の墓
白蓼や草に埋もれて茎赤し
石積の砲台跡や夏の草
井上すみ子
ひろびろと刈りあけてあり滝の道
長梅雨にこもりて独りこづくろい太田 佳代
露けしや岩藓苔咲きし滝の道
露草やここに明治の幟台
井上ひろし
緒の朽ちて鈴の落ちたる滝御堂



隨

筆

南の山・北の山

猪谷 嘉夫（高松）

五月の連休にグループで南九州の霧島山系へ登った。往復とも別府通いの夜行便、往きは連休初日とて殊の他の混雑。えびの高原に出る。二十年前に比べ、道路も舗装され、沿道には花木が植えられ実に美しくなっていた。えびの高原で一泊。翌朝、韓国岳（一七〇〇米）に上る。硫黄の蒸気を噴出する麓の硫黄山から樹林の中、頂上近くになるにつれ火山岩、頂上では九州の南半が展望できる。生憎くの霧で何処も見えない。健脚家は縦走して高千穂河原に出るが、一旦下山、ハイヤーで高千穂河原に行く。高千穂峯も中腹までは楽だったが、中腹からは急傾斜で火山砂と火山礫で苦労する。頂上近くまで上ったが、濃霧で視界は数米、方角を失う恐れがあって下山せよとのことで引返す。残念だが危険は避けねばならない。翌日、霧島神宮まで遊歩道歩いて帰路に着く。

六月一日、一人で尾瀬へ行く。上越線の沼田で泊り、翌日バスを乗継いで鳩待峠へ。峠の前面には残雪に輝く至仏山が実に美しい。峠を下って山ノ鼻経由で尾瀬ヶ原の木道を歩く。名物のミズバショウも少々時季遅れ、下田代十字路の山小屋で泊る。翌日は燧岳南麓

の尾瀬沼林道を上り尾瀬に向ったが、雪解け水と石ころ道の上り坂で少々苦労した。沼尻から尾瀬沼の南岸路を、燧岳を眺めながら三平下へ。ここから長蔵小屋で泊り、奥只見を廻る予定が、途中のバスがないので、三平峠を越え大清水に出て、沼田経由前橋で一泊、天気が良かったので急に赤城山に登る。新緑の山々、頂上から遙か北方に残雪を頂く谷川岳、上州穂高連峯も実に美しかった。私にしてみても赤城山はこれが見納めである。

隠岐を訪ねて

藤田 基孝（宇和島）

古くから重罪人流刑の島として知られる隠岐は又歴史の島でもある。

承久の乱で後鳥羽上皇が流されたのは島前の海士島で上皇行在所趾とその御火葬塚があり、元弘の乱後、元弘二年三月七日に後醍醐天皇が京を追われ二十六日間の長き旅の末、行在所になったのが島後の国分寺であった。

明治四年の廃佛毀釈騒動の際裏山に捨てられし佛像等総て拾い集め、この国分寺に保存されてあるのを見て私は胸が詰った。

水若酢神社の樹齢二千年という大杉の下をぐぐりて資料館にゆく、特に眼をひいたのは「ガシン俵」で、昔飢饉に備えて農家の屋根裏に吊し保存してあったもので、黒く煤けた俵の中味は稗の種子であった。

島後から海上一時間余にして島前に渡る。西の島の入江近く小高き天皇山と呼ぶ山の石階を登り切ると山頂の老松に囲まれし一區画に黒木御所趾の石碑が立つ、私は暫く佇みて天皇の御嘆きを偲ぶ。山麓の碧風館には時の

忠臣等と建武中興を図る後醍醐天皇の御画像やその外数多くの史料を展示してあった。

隠岐の自然景観の見所といえは何と言っても国賀海岸であろう。牛馬二百余頭を放つ赤尾牧場を越え、二五八メートルの断崖に立ちて私の小さな肝を冷し又遊覧船にて海中に屹立する奇岩や断崖を海上より仰ぎ、更に岬を大自然の力が貫く荒々しき洞窟内を船のライトが照しつつ幾度も岩壁に舳先や舷を突当て擦りつけながら二五〇メートルの暗き洞窟を潜り抜ける興味とスリルを堪能して二日泊りし隠岐の島を静かに去った。

バスの座席

田中 義隆（松山）

バスに乗って空いておれば、いちばん前の座席にすわる。乗り心地だけでなく見晴らしがよいから、観光バスではなおさらだ。観光旅行では、目的地はもとより道中も十分に見ておきたい。

五月に愛媛県皇居奉仕団に参加して、四日間の奉仕を終ると、ただちに夜行列車で一路北上してユーターン、残雪と新緑の「みちのく」を、こんどは観光バスで南下した。

コースは青森―十和田湖―湯瀬温泉泊―八幡平―中尊寺―鳴子温泉泊―松島―浄土平―五色沼―磐梯熱海温泉泊―日光―東京で、じつにすばらしい旅だった。

一行は六十名で八班編成、バスには班ごとに乗車し、午前と午後に乗車順を交替した。最初からの申し合わせだったので座席争いもなく、和気あいあいと乗車した。そのことが旅をいっそうたのしくしたのである。

私の叔母

合田 勇 (松山)

道後湯之町に、優しい叔母がいて、食糧難の時、人には親切にだれかれと言わずよく世話をしていました。家では小店をだしてお菓子等を安く売っていました。家が二階建てで海軍の兵隊さんが下宿していました。兵隊さんの友達がいとも遊びに来て、戦争に行けば銭は無用とよく道後で使ったようでした。出征の時は勝って帰るようにと日の丸を振り見送りましたが勝つどころか死の公報や、遺骨で帰るばかりでした。叔母は中年で夫に先立たれ子供はなく可哀相な身の上でした。悪いことにはその上色々な事が重なり、家は軍の自動車が入込みそのために怪我をして、長い間の入院生活。年寄で思うように治らず後遺症に悩まされていました。その後何神様と言わず参拜し、中でも金光様へはよくお参りしていましたが全快の見込なく年も九十才を過ぎ最後は北条の聖カタリナで世話になりました。一生懸命信仰に生き天寿をまっとうしました。子供がなかったので甥や姪が集って供養をすることに話しあいました。今年が丁度七回忌に当り、先日皆さんで道後の郵政会館でテールを囲みありし日の叔母を偲び昔話はずみました。



合田 勇 (松山)

散髪を息子にさせて若返り
老眼を辞書の活字へ持ってゆき
初物を分け合う妻も長生きし

玉川 柳遊子 (松山)

句敵となつて友情また深め
否定する逢瀬見ていたお月様

余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多年電気通信事業に貢献されましたご功績により叙位叙勲が授与されました。

- 正七位勲八等瑞宝章 (丑・二・三)
- 故 守屋 一之殿 (丸 龜)
- 勲 八 等瑞宝章 (丑・三・三)
- 故 小橋 賢殿 (鳴 門)
- 正七位勲七等瑞宝章 (丑・四・五)
- 故 楠瀬 勉殿 (徳 島)

訃 報

次の方が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所属
西内 敏徳殿	55・5・24	六六	高知
渡辺喜八郎殿	55・5・25	七六	丸亀
齊藤 満殿	55・6・1	七九	徳島
小野 要殿	55・6・19	六七	松山
山野 寿一殿	55・6・22	七七	丸亀
早川八十八殿	55・6・30	七一	阿波池田
岩本 好喜殿	55・7・14	六四	八幡浜
正岡 国光殿	55・8・7	六三	伊予

次号予告

次号三十三号は、一月一日に発行の予定です。お正月のこととおめでたいことや嬉しいこと、面白いもの、さらに景気の良い話などのご寄稿を期待して居ります。

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 一月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

▽「秋深まって酒たのし」の広告が目にはいる。勤め帰りに気のあった仲間と「のれん」を分け、杯を交して酌む酒に過ぎし若き日を偲ぶ今日此の頃。生きているという幸せをしみみ有難く感謝する。
▽五十六年度恩給改善について、総理府恩給局から大蔵省へ概算要求が提出された。それによると、恩給の仮定俸給を四・二%十五三〇〇円増額し四月実施となっている。今後のなりゆきにもよるが、昨年度よりいくらか明るいように思われる。
▽各県の会では新入会員を迎え、会員数がウナギのぼりに上昇している。本会報にも新人の活躍がのぞまれる。次号は四年にちなんで、はつらつとした鶏鳴をあげてほしい。
(玉川記)

電友会四国連合会会報 第三二号

昭和五五年一〇月一日発行

編集発行 電友会四国連合会 事務局

松山市一番町四丁目 (〒七九〇)

四国電気通信局内

電話 (〇八九九) 三六二一・二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社